

平成24年度学内版 GP 成果報告書

取組名	教育カウンセリング課程における学校心理実習の充実に向けた取り組み
実施組織	教育学部教育カウンセリング課程
実施責任者	上村恵津子
取組の目標	心理職を目指す学生を対象とした学校心理実習の充実に向け、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 附属学校と連携の基、「学校心理基礎実習」を開設する ・ 実習に先立つ指導として「心理学観察法演習」を学部で開設する ・ 観察実習用視聴覚機器の整備充実を図る
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 附属長野小学校との連携により、平成24年度には「学校心理学演習Ⅰ」において観察実習を行なった(受講者数16名)。 2. 附属長野小学校との連携により、平成25年度には、教育実習を履修しない教育カウンセリング課程3年生を対象に、「心理学特講Ⅰ」において「学校心理基礎実習」の試行的実習を行なう(予定受講者数5名)。 3. 実習に先立つ指導として、平成25年度より「心理学観察法演習」の授業を開設した(教育カウンセリング課程2年必修科目)。 4. 観察実習視聴覚機器としてビデオを購入し、附属および学部に配置し、学習環境を整備した。
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	<p>附属長野小学校との連携により平成24年度開設した「学校心理学演習Ⅰ」では、授業前半に観察についての講義を行なった後、附属での観察実習を2回、観察クラスの担任との振り返り連絡会を1回実施した。受講生からも「教育実習前にこのような実習を行ないたかった」との感想を得ている。観察を軸とした附属学校での実習は、心理職として授業を観察する視点や技能を習得し、教師の視点をも理解する機会になり得るとの手応えを感じている。</p> <p>平成24年度の学生の反応および感想より、観察回数を多くするよりも、観察後の分析や振り返りの時間を十分に確保することが、次の観察の視点をより明確にする感じが感じられる。実習の実施にあたっては、観察実習と分析の時間の配分について、さらに検討することが課題である。</p>